

先端計測分析技術・機器開発事業

平成20年度予算案 : 5,500百万円
(平成19年度予算額) : 4,800百万円

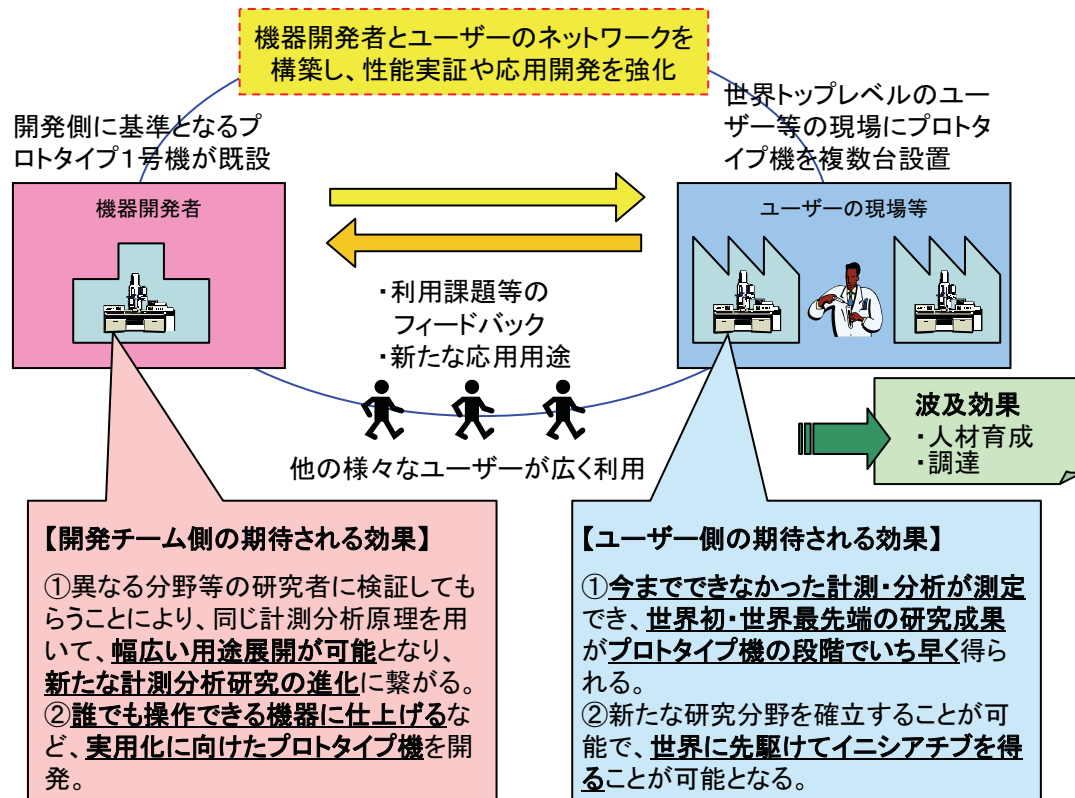
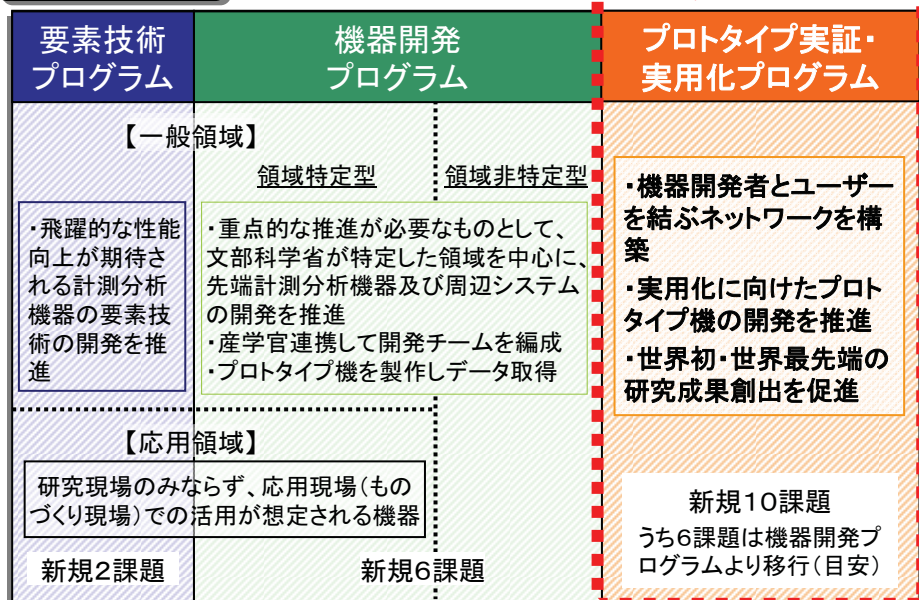
～「プロトタイプ実証・実用化プログラム」を創設し、機器開発者とユーザーのネットワークを構築～

先端計測分析機器を取り巻く現状と課題

- ・我が国の先端計測分析機器の多くは外国依存であり、脱却が急務
⇒ **我が国独自の計測分析技術・機器の開発**が必要
- ・世界最先端の研究データ・独自の研究データはオリジナルの計測分析技術・機器から生じる。
⇒ **世界初・世界最先端の計測分析技術・機器の開発**が必要
- ・先端的な技術・機器の開発から実用化(製品化)までには、大きな溝(いわゆる「死の谷」)が存在
⇒ 全体システム、操作性等を**多くのユーザーに評価してもらうことにより、ニーズを的確に把握する仕組み**が必要
- ・先端計測分析技術・機器開発は科学技術の各分野に共通する基盤である。
⇒ 異なる分野のユーザーが試用できる**ネットワークの構築**が必要
- ・欧米は、戦略的に技術を秘匿し、戦略的に国内メーカーから調達
⇒ **我が国独自の戦略的な調達の仕組み**の模索が必要

世界初・世界最先端の計測分析技術・機器を開発することにより、独創的な研究活動を支える基盤を整備し、科学技術のイノベーション創出を促進する。特に平成20年度は、従来の「要素技術プログラム」「機器開発プログラム」に加え、新たに『**プロトタイプ実証・実用化プログラム**』を創設し、機器開発者とユーザーのネットワークを構築することにより、**実用化に向けたプロトタイプ機の性能実証、並びに応用開発を強力に推進**する。

事業の体系



実用化に向けたプロトタイプ機の開発により、独創的な研究活動を支える基盤整備